

ボランティア派遣の広報と着任の挨拶として



教育学部附属教育実践総合センター地域連携部門客員教授
スクールサポートセンター コーディネーター

酒見 廣志

本年4月1日にスクールサポートセンターに着任いたしました。この3月末日までは県立高校に勤めていました。学校と大学との橋渡し役として尽力できればと思っています。

本学の大きな柱として「地域への貢献」を掲げ、先進的な活動に取り組み、全国の大学の中でも、高い成果と評価を得ていることは以前より知るところでした。

中でも、教育分野での地域貢献としては、学校の研究活動・教員研修事業に係って、本学の多くの先生方にお世話になっています。さらに、スクールサポートセンターを設置し、学生・院生による活動が組織的になり、学校や生涯教育活動の現場に直接赴いて補助や支援の活動を行うようになりました。加えて、平成22年度から、国際学部と教育学部が連携して「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献ー多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進ー」プロジェクト(HANDSプロジェクト)を立ち上げ、外国人児童生徒教育・グローバル教育に対応する事業に取り組んできています。

社会のグローバル化に伴い、昨今の小・中・高校での外国人児童生徒の転入はよくあることです。高校の場合は、可否の判断を経て転入が認められますが、義務教育諸学校においては、その数は少ないとはいえ、突然にしかも否応なしに受け入れる

ことになります。しかも、殆どの場合、留学目的ではなく、親の就労等の家庭の事情に伴って、子どもの希望の有無にかかわらず日本の学校に転入するのです。学校としても、当該児童生徒のクラス担任が中心になり、様々な指導・支援をしながら日常生活・学校生活へ滑らかな接続を促そうと努めています。しかし、当該児童生徒から見れば満足できるものではない現状が多くあるのではないかと推測します。適切な手当を困難にしている第一原因としては、その子どもと家族が使う言語が、日本では馴染みのないものであることで、日常的な生活上の意思疎通や教育活動上の理解もままならない現状にあると推測します。

このため、教育学部スクールサポートセンターは学生ボランティアの派遣の窓口となり、外国につながる子ども達に対する日本語指導や適応・学習指導などを支援しています。学校として派遣のご希望がありましたら、宇都宮大学教育学部スクールサポートセンターまで、下記の事柄をお伝え願います。



- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 1 支援の名称 | (学習支援、日本語指導補助、教材作成補助 等) |
| 2 支援の時期・時間 | (時期、期間、時間 ○○:△△~○○:△△ 等) |
| 3 支援の場所 | (○年○組教室、体育館、帰宅路 等) |
| 4 具体的な支援の内容 | (○○の学習支援、取り出し授業支援 派遣人数等) |
| 5 留意事項 | (留意点、対象児童・生徒の実情 等) |
| 6 連絡先及び担当者名等 | (TEL/FAX 番号、担当者名、E-mail アクセス 等) |